

認知症を地域で支えよう

入会のご案内

～認知症の人を抱える介護者の心のより所～

認知症になってしまったからといって何もわからないわけではありません。

知的な心の働きは衰えても、感情は残っています。

認知症のお年寄りの心を理解することが介護のコツです。



小樽認知症の人を支える家族の会

家族会の活動内容

家族の会ではお互いに「助けあいの心」で、いたわりあい、励ましあい、理解を深め、少しでも苦しみを幸せと喜びに変えようと 日々の実践と福祉の向上を目指しながら努力しています。

会では精神的援助「認知症」に関する情報の提供を目標として 次のような活動をしております。

つどいの会

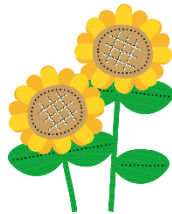
会員一般市民、若年認知症の人を支えている家族の方々も参加して、お互いの話し合いを通じて交流を深め、ストレス解消の場として大変好評で活動の原点となっています。

家族のつどい



発行物

会報ひまわりを発行しております。
(総会資料含む)



SOS ネットワーク

家族だけでは探しきれない徘徊高齢者の命を守るために、SOS ネットワークの利用をすすめています。

研修会

いろいろな方の講義を聞いたり、介護の実際に役立つ講習を受けたり認知症の理解と介護技術の向上をはかります。

施設見学

医療機関や老人福祉施設を見学して知識を広め、介護職員の方々との情報交換をはかっています。



介護者家族の リフレッシュ事業

本人及び介護者の気分転換をはかる機会として行っています。

電話相談・その他

介護する人達の相談を
随時受け付けています。



認知症ってなあに？

誰でも年をとると物忘れをするようになり、知っているはずの事柄が思い出せないということがしばしば起こります。普通の物忘れは体験したことの一部分を忘れますが、認知症の人はちよっと前の体験したことの全部を忘れてしまいます。

また、物忘れだけにとどまらず、判断ミス、人格の変化、行動異常も加わってきます。しかも認知症の自覚に乏しく、社会生活をする上でさまざまなトラブルが生じてきます。このような病的な物忘れを認知症といいます。



★家族へのアドバイス★

認知症と診断されても、あわてて騒がないことが第一です。一歩下がって観察し、自分の言葉で表現するようにしましょう。「徘徊」「妄想」といった専門用語を使わず、普通のことばで、いつ、どこで、何が起こったかを記録します。認知症に詳しい専門家と相談する時、日常語で具体的に書かれた記述のほうが情報量のはるかに多く、対応策も考えやすいのです。そこから先の対応は時と場所と人によってさまざまです。

対応の目標は本人と家族の穏やかで心地よい生活です。症状は消えたけれど、動けなくなったのではなんにもなりません。症状や状況によっては向精神薬などの薬が必要になることがあります。薬は誤った使い方をすると百害あって一利なしですが、使うべき時に躊躇すると取り返しのつかないことになります。専門家の意見を聞くべき時には謙虚に聞きましょう。

同じ悩みを持つ仲間話し合い。

ストレスを解消しよう。

情報を早く知り、研修を深め、苦悩を

幸せと喜びに変えよう。

認知症を正しく理解し、支援する

仲間の輪を拡げよう。

☆一人でも多く「家族の会」に入会を☆

- | | |
|-------------------|--------|
| 家族で認知症を介護している方 | (A 会員) |
| 又はすでに看とった方 | (B 会員) |
| 関心と理解を持って支援して下さる方 | (C 会員) |
| 本会の目的に賛同する法人等 | (法人会員) |

どなたでも入会できます

☆家族はどうしたらいいの？

家族と同じ立場で相談できる場所は？

小樽認知症の人を支える家族の会



相談日：奇数月の第2金曜日 午後 1:30~3:00

場 所：小樽市総合福祉センター内

事前連絡先：TEL 090-7050-4408 (会長 源九美津枝)

TEL・FAX 0134-33-7300 (事務局長 斉藤英秋)